

# 私のおすすめ

## 好きな曲

演奏・創作学科声楽専修 4年 古田 もね

DVD

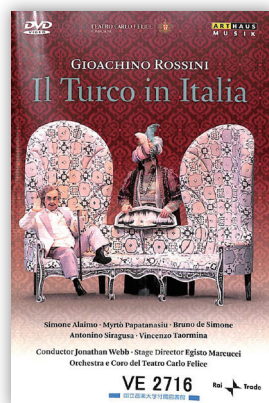
様々な逸話を持つロッシーニには39のオペラ作品があり、すべてのジャンルで成功しています。しかし、37歳の時の「ウィリアム・テル」以降はオペラ作品を作曲していません。さて、私のおすすめは、「イタリアのトルコ人」のDVDです。当時のオペラ作品を多数執筆したフェリーチェ・ロマーニの台本で、本能のままに生きる女性の恋の駆け引きを題材にしています。興味を持ったきっかけは、ロッシーニのCDをプレゼントされたことでした。その中で印象に残った曲は二重唱「奥様のお好きな様に」です。嬉しいことに昨年発表会でこの曲を歌う機会がありました。その後観に行けなかったと思っていた1814年の初演と同じミラノ・スカラ座での上演をイタリアのラジオで生放送されているのを自宅で聞き、感激しました。

あらすじは、愛人がいる気紛れな妻フィオリツァと、そんな妻に振り回される年老いた夫ジェローニオの夫婦が主人公で、フィオリツァはトルコから来た若い男セリムと意気投合します。妻の生活態度に苦情を言う夫に対してフィオリツァは好きだとなだめますが、そうかと思えば千人の愛人を作って夫を困らせようと企み、

全く反省していない様子です。セリムが偶然元恋人ザイダに出会います。そこにフィオリツァが現れ二股疑惑で、恋のライバルが集まり大混乱です。セリムは仮面舞踏会にまぎれてフィオリツァをトルコに連れて帰ろうと試みますが、セリムとフィオリツァと同じ格好をしている人が他にもいて見分けがつかません...結局二人はトルコに行き結ばれるのでしょうか?是非見て確かめて下さい。

また、歌劇「新聞」には「イタリアのトルコ人」の曲など自作の転用があるので聞き比べると面白いです。どちらの作品も愉快です。初演ではフィオリツァの不道徳さに反感があったようですが、今の時代にも起こりそうな恋愛のゴタゴタ話なので、難しいと思わず楽しんで観賞出来る作品だと思います。

「Il turco in Italia」  
Gioachino Rossini  
Arthaus Musik c2010  
請求番号●VE2716



ふるた もね ● 大学好きすぎて卒業したくないです。新型コロナウイルスの影響で、往復50キロ以上ある大学まで自転車で行ってみました。

## ピアノ科、必見!!

大学院音楽研究科修士課程器楽専攻[ピアノ]1年 吉原 佑香

図書

私がこの本に出会った時には既に3巻出ていまして、今回紹介するのは第2巻です。確か学部2年の時、ピアノの特別レッスンや公開レッスンを聴講し、先生から語られるアドバイスやお話に感動していた頃です。なので、スタディールームに置かれていたこのピアニストのインタビュー集がパツと目に入ったのです。これは絶対面白そうだと直感し、すぐに借りました。今思い返すと、私の学部時代の音楽への取り組み方に大きく影響した本だと言えます。

まず手に取った第2巻にはツィメルマンがいました。私は彼のショパンのバラードの演奏が大好きだったので、インタビューを読んでみたいと軽い気持ちで読み進めたのですが...当時のポーランドのこと、自身の幼少期、レッスンやコンクール、アンサンブルやソロに取り組むときの考え、芸術家の本質、楽譜からどのように読み解くカルトスワフスキの作品を通してのお話等々...幅広い内容に圧倒されてしまいました。

他にも、ツィメルマンだけでなく10人以上ものピアニストが率直にご自身の音楽についての考えを自由に語っています。(本学

でも隔年、特別レッスンをして下さっているペロフ先生もいますよ!!)そして、素晴らしいピアニストという共通点があるものの各国の情勢・政治・生き抜いた時代・生活は皆様々です。ピアニストである当事者から語られると、政治や教育などの歴史をとっても直接的に感じる事が出来ます。

以上のように、この本からはピアニストの方々がどのようにして音楽に、ピアノに向き合っているのかを知ることが出来ます。その中で、自分とは違う考えや欠けているものを発見したり、反対に自分が感じていたことが同じだったり。また、なかなか音楽を言葉で表現するのは難しい作業ですが、事細かに議論しているのでとにかく面白い上に勉強になるのです。最後に、読み終えた時気づくのですが、全ての人が最後のインタビューの質問に共通したメッセージを伝えています。それは...。どうぞ、ご自身の目でお確かめ下さい♪

音符ではなく、音楽を! : ピアニストが語る! (現代の世界的ピアニストたちとの対話 第2巻) 焦元溥著 森岡葉訳 アルファベータブックス 2015 請求番号●シラバス||鍵盤楽器||B4(J128650)



よしはら ゆうか ● 今春はコロナウイルスで図書館には行けなかったのですがこのシリーズを検索するまで気づきませんでした、なんと第4巻が出ていました。